



消防学校 ニュース



令和7年12月号

消防職員特別教育 女性消防吏員講習(第8回)

11月26日(水)から28日(金)までの3日間、消防職員特別教育女性消防吏員講習を実施し、県内7消防本部(局)から様々な業務内容を行っている8人の学生が参加しました。

この講習では、専科教育の入校実績が少ない女性消防吏員の職域拡大を目的とし、火災防ぎよの基本的な訓練から、小隊長としての現場指揮訓練や小隊シミュレーションを実施することでチームビルディングを磨きました。また、「働きやすい職場環境」をテーマに事例研究を行いました。



FORWARD



学生アンケート

- ・今回の講習は自信がなかった自分を奮い立たせてくれた。
- ・正直大分後ろ向きな気持ちでいたが、この講習を受けて視野が広がった。来て良かった。
- ・個人スキルからだんだんとレベルを上げていく感じでとても理解しやすかった。
- ・女性だけなので失敗を恐れずに積極的に訓練ができた。
- ・現場指揮訓練を実施して、指揮という分野にとっても興味をもった。
- ・今回経験して指揮や隊長という立場も目標の一つになった。

(担当教官コメント)

実科訓練中心の3日間で非常にハードな講習だったと思います。学生は個人のスキル、小隊のスキル、小隊のチームビルディングを段階的に捉えてステップアップしたと感じています。

前向きで真摯に講義や訓練に臨んでいる学生の姿は、同じ消防職員として頼もしく感じました。この講習が自信やチャレンジするきっかけに繋がり、「FORWARD」前へ前へ大きく進んで行けることを信じています。

教務課主査 浅井 光貴 (袋井市森町広域行政組合袋井消防本部から派遣)

消防職員専科教育 警防科（第20期）



11月5日（水）から20日（木）までの12日間、消防職員専科教育警防科を実施し、県内15消防本部（局）から39人、台湾の基隆（きいるん）市から3人が入校しました。

警防科のカリキュラムでは、火災性状、現場指揮、無線運用や消火設備など警防業務に関する基礎知識からCBRNEや多数傷病者対応などの特殊災害対応まで限られた期間の中で学ばなければならないことが幅広くあります。どの災害もいつどこで発生しても不思議ではありません。そのため、想定外をなくすため、^{とりゅうのぎ}屠龍技を磨くため幅広い災害対応について学ぶカリキュラム構成としました。また、火災現場でのノズル選定など、なぜその資機材を使用するのか、指揮者としてなぜその戦術や報告を行う必要があるのか根拠を持った活動が出来る知識と技術を身につけてもらうことを目的に基礎から学び、応用へと段階を追って学べるようにしました。入校生は、年齢層も幅広くこれまで歩んできた消防キャリア、基隆市（台湾）からの学生と文化も言語も経験も多種多様の中でスタートしました。

警防科を運営する中で、消防は素晴らしいなと感じたのは、こうした多種多様の人が集まっても「国民の生命身体財産を守る」という共通の目的がある私たちはあつという間にまとまり、一つの目的に向かって切磋琢磨していくことが出来るということ改めて感じる事ができたことでした。

知識を学び、学生間で意見を出し合う中で多くの気づきが生まれた座学



失敗を恐れず、情熱を持って全力で取り組んだ訓練



実火災体験型訓練



ノズル選定



FireFighterSurvival



小隊長指揮訓練



火災想定訓練



コミュニケーション訓練



小隊長



多数傷病者対応訓練



警防科のために一生懸命準備し指導していただいた講師陣に感謝



(担当教官コメント)

警防科を終えて、まず初めに通常業務にお忙しい中、講師として支援いただきました方々に深く感謝申し上げます。講義資料作成や訓練準備など多くの負担をかけてしまうその苦勞に、42人全員が全力で座学、訓練に取り組んだ姿を見せたことで、支援いただいた講師に感謝の思いを伝えられたのではないかと考えております。警防科の集大成として実施した学生企画訓練は、消防大学校でも実施しておりますが、入校期間が12日間しかない警防科では時間的に大変厳しいものがあります。ただ、各所属において活躍が期待される指導者として訓練企画運営能力は必要不可欠となるため、学生の負担を承知でカリキュラムに組み込みました。正直若干の不安も抱えていましたが、学生企画訓練統括リーダーを始めとした42人全員が一丸となり、課外時間も夜遅くまで話し合い、素晴らしい訓練を企画し、感動すら覚える訓練を披露してくれました。本当に嬉しかったです。

入校初日に、階級やこれまでの経歴に関係なく、失敗を恐れず積極的に挑戦してくださいと伝えました。誰もが、人前で失敗することには抵抗があります。ただ、挑戦し、失敗し、振り返ることで成功が生まれ、その経験は自分自身を大きく成長させてくれます。既に各所属で指導者として後輩指導に当たっている学生が多いですが、失敗を恐れず、挑戦し、失敗してもそれを好機ととらえ改善するための努力をしていく。そうした姿を指導者が見せることは、後輩に大きな影響を与えると思います。今回、一日一日を全力で挑戦した第20期の皆様には、今回出会った素晴らしい同期との繋がりを大切に益々御活躍されることを期待しております。ありがとうございました。

教務課主査 鈴木 雅人(富士山南東消防本部から派遣)

消防職員幹部教育 中級幹部科(第39期)

11月11日(火)から20日(木)までの8日間、消防職員幹部教育中級幹部科を実施し、県内13消防本部(局)から18人が入校しました。

この中級幹部科は、「中級幹部として責任、立場を理解するとともに、組織管理、社会動向等を理解し、災害等に対する確かな指揮及び対応ができること。」を到達目標としています。



警防科合同訓練(多数傷対応・同時火災対応)



危機管理広報・報道演習



大規模災害対応シミュレーション訓練

(担当教官コメント)

期間中、近くでサポートをさせていただき、皆様が各種講義や訓練に真剣に取り組まれる姿を目の当たりにし、こちらの身が引き締め、多くの刺激をいただきました。

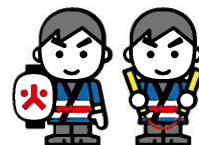
8日間という短い期間ではありましたが、本課程で得た、様々な「気づき」を今後の組織運営や部下指導に生かしていただければ幸いです。

また、今回出会った『一期一会』の絆を大切に、今後の皆様の御活躍を祈念いたします。

最後に、本課程に関わってくださった全ての皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

教務課主査 水野 清人(磐田市消防本部から派遣)

消防団員幹部教育 初級幹部科（第17期）



（担当教官コメント）

11月8日（土）に消防団員幹部教育初級幹部科を実施し、県内消防団から41人が受講しました。座学では、元熱海市消防本部消防長 植田宜孝様より、令和3年7月に発生した熱海市伊豆山土石流災害について、災害時の体験談と消防体制の在り方について貴重な御講義をいただきました。訓練では、ドールハウスの燃焼実験、ホース取扱要領、指導する側としての止血・搬送法及び訓練礼式を実施し、指導者としての基本的技術と心構えを再確認していただきました。

今回の訓練で得た知識や経験が、今後の消防団活動の充実強化に繋がることを期待しております。

教務課主任 菅野 格太（熱海市消防本部から派遣）

（防災：座学）



（現場指揮：ドールハウス）



（現場指揮：ホース取り扱い要領）



（防災指導要領：止血法・搬送法）



（訓練礼式）



消防大学校レポート

総合教育 幹部科第 83 期



全国から集まった同期学生



実火災体験型訓練



指揮シミュレーション訓練



座学の様子

10月10日（金）から11月28日（金）の間、消防大学校総合教育幹部科第83期に入校させていただきました。

今回の幹部科では、消防関係法規、消防行政全般に関する全国的な動向、課題研究など幹部職員として組織運営に必要な幅広い知識及び現場指揮能力を養うため、各種災害現場を想定した部隊運用訓練・指揮シミュレーション訓練を行いました。

消防を取り巻く環境は、複雑多様化する災害への対応、救急件数の増加への対応、人材の確保、人材育成、職場環境整備、定年延長に伴う高齢期職員の能力や知識を発揮できる適正配置など様々な課題を抱えています。このような課題を解決し、持続可能な消防組織を構築していくことが求められていると思います。消防本部の規模により、各課題の解決方法は異なると思いますが、課題に対し真剣に向き合って解決策を見出していく必要があると強く感じました。

今回、幹部科のカリキュラムを通じて多くの知識・技術を得ることができました。これらを消防学校教育に還元できるよう努めて参ります。

教務課主査 都築 克典（静岡市消防局から派遣）

白鳥校長の一言（時事雑感）

今年の漢字

令和7年（2025年）の世相を表す漢字の第一位に「熊」が選ばれました。これと同様に政治家や著名人が、今年一年を象徴する漢字を様々な形で公表されていますが、本校が所在する静岡市・難波市長は「礎（いしずえ）」を挙げられました。この一字に、市政に懸ける様々な想いが凝縮されているように感じます。

翻って本校の一年を漢字で表すとどうだろうか？そこで校内で意見募集した結果、挙がったのが「**熱**」でした。今年はとりわけ過酷な「**熱暑**」の環境下にあったこと、初任科教育における教官方の燃えるような「**情熱**」、**熱**海市消防本部からの初の教官派遣、さらに初任科教育訓練中には「**発熱者**」多数、これらが選定の理由とのこと。

「なるほど！」と思わず膝を打ちました。同時に（40年前にヒットした小林旭さんの曲ではありませんが）、今後も「**熱**き心」が本校の価値ある伝統として息づくことを願ってやみません。

学校の運営は、職員一人ひとりの弛まぬ努力から生み出されるものであれば、本校の今年の漢字はこれだけに限りません。今年を振り返る意味で、漢字というツールを通じて各自が今年一年に思いを巡らせ、それを職員同士や家族間で共有してみることも意義あることと考えます。

ちなみに私個人の今年の漢字は「謝」。本年4月に着任以来、職員はもとより多くの方々に支えられての一年であり感謝に堪えません。紙面をお借りしまして、改めて関係各位に御礼申し上げる次第です。

令和8年（2026年）の干支は「丙午」。「馬」からイメージされるように「勢いよく駆け巡る」や「前進」を意味する年に喩えられます。今から一年後、その年を表す漢字が「成長」や「発展」にちなんだ言葉で振り返られるように、加えて学校の運営も「ウマ」くいきますよう、引き続き努力を重ねたいと思います。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎: 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

